

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GEBS1107				
2. 授業担当教員	沼澤 清一						
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期				
6. 履修条件・他科目との関係							
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>						
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 						
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【課題レポート】</p> <p>課題1 : 縮約文の提出 第4回後 課題2 : 縮約文の提出 第5回以降に課題文を配布。その後、提出する。 課題3 : 身の回りで起きている問題や関心のある社会問題について、自らの課題 (テーマ) を設定し、論文形式を踏まえてレポートを作成する。レポートは1600字程度とし、第14・15回の授業で発表し、その後提出期日に従って提出する。</p> <p>【振り返りシート】</p> <p>指定された講義の終了後、講義によって何が解決され、何が解決されなかったのか、また、自分自身はどのような考えを持ったのかなどについてまとめ、講義終了の3日後までに提出する。</p>						
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 河野哲也『レポート・論文の書き方入門 (第4版)』慶應義塾大学出版会、2018年。</p> <p>【参考書】 福川一夫『真似から始める文章教室縮約練習法ーエッセイ上達の極意』テン・ブックス、2005年。</p>						
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポートや論文の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解しているか。 2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 積極的参加度 (発言、討議、取り組み等)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 レポート (小課題を含む)</td> <td>総合点の70%</td> </tr> </table> <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>			1 積極的参加度 (発言、討議、取り組み等)	総合点の30%	2 レポート (小課題を含む)	総合点の70%
1 積極的参加度 (発言、討議、取り組み等)	総合点の30%						
2 レポート (小課題を含む)	総合点の70%						
12. 受講生へのメッセージ	<p>レポートの書き方・発表の仕方を習得してもらいます。</p> <p>最初に、縮約を通して書かれている内容を的確に読み、まとめる方法を身につけます。次に、小論文について学習します。事例に触れ、実際に書き、それを修正します。小論文とは、何であるかを体得してもらいます。</p>						
13. オフィスアワー	初回授業時に伝える。						
14. 授業展開及び授業内容							
講義日程	授業内容	学習課題					
第1回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方の説明。 自己紹介文の作成と提出。	事前学習	自己紹介文を考えてくる。				
		事後学習	授業の受け方の大事なことや自己紹介文の書き方についてまとめておく。				
第2回	縮約① 導入 縮約と要約 縮約の特徴、形式を知る。	事前学習	縮約の特徴について調べておく。				
		事後学習	縮約の形式や特徴について説明できるようにする。				
第3回	縮約② 実践 I 縮約文を実際に作成する。	事前学習	縮約の形式を確認しておく。				
		事後学習	各自が作成した縮約の修正箇所を検討しておく。				
第4回	縮約③ フィードバック 実践 I を修正する。	事前学習	各自が作成した縮約の修正箇所を確認しておく。				
		事後学習	修正前と修正後で比較し、修正視点を説明できるようにする。修正縮約文を提出する。				
第5回	教科書『レポート・論文の書き方』の第1章をもとに、レポート・論文の必要性とその書き方の基礎事項を学ぶ。 また、原稿用紙の使い方を理解する。	事前学習	教科書の第1章 pp. 2~11 を読み、作文・レポート・論文の基礎事項や原稿用紙の使い方を調べておく。				
		事後学習	レポートや論文の基礎事項を説明できるようにする。				

第6回	教科書『レポート・論文の書き方』の第1章をもとに、感想文やエッセイとレポート・論文の違いを理解する。	事前学習	教科書の第1章 pp.2~11を読み、感想文・エッセイ・レポート・論文の違いを調べておく。
		事後学習	感想文・エッセイ・レポート・論文の違いについて説明できるようにする。
第7回	教科書『レポート・論文の書き方』の第2章をもとに、テキスト批判による論文の読み方・書き方の方法を理解する。ここでは、特に問題意識やテーマの設定の方法を理解する。	事前学習	教科書の第2章 pp.14~29を読み、テキスト批評の仕方を調べておく。
		事後学習	テキスト批評の仕方について説明できるようにする。
第8回	教科書『レポート・論文の書き方』の第3章をもとに、論文・レポートの必要要件と構成について理解する。	事前学習	教科書の第3章 pp.32~54を読み、レポート・論文の必要要件を調べておく。
		事後学習	レポート・論文の必要要件と構成について説明できるようにする。
第9回	教科書『レポート・論文の書き方』の第4章をもとに、論文・レポートのテーマや課題の設定、本文の組み立て方を理解する。	事前学習	教科書の第4章 pp.56~68を読み、レポート・論文の本文の組み立て方を調べておく。
		事後学習	レポート・論文の組み立て方について説明できるようにする。
第10回	教科書『レポート・論文の書き方』の第5章をもとに、資料の探し方、注や引用・文献の付け方を理解する。	事前学習	教科書の第5章 pp.70~91を読み、資料の探し方を調べておく。
		事後学習	注・引用・文献の付け方について説明できるようにする。
第11回	レポートの構成やまとめ方について、分かりやすい表現・正しい表現・適切な語彙・文法表現等を理解する。	事前学習	正しい表現・適切な語彙・文法表現等を調べておく。
		事後学習	正しい表現・適切な語彙・文法表現等を覚える。
第12回	小論文① 実践Ⅱ 小論文を実際に作成してみる。	事前学習	小論文を書くテーマを探しておく。
		事後学習	各自が作成した小論文を再度読んで修正箇所を確認する。
第13回	小論文② フィードバック 実践Ⅱを修正する。	事前学習	小論文の改善点を見つけておく。
		事後学習	再読し、さらに修正を加え、成果発表の準備をする。
第14回	文章表現の成果発表～小論文を紹介しよう～ グループで読み合わせをして、修正箇所の検討をする。	事前学習	成果発表の準備をしておく。
		事後学習	発表を参考にして自分の小論文を見直す。
第15回	文章表現の成果発表～小論文を紹介しよう～ 多くの友達のレポートを読み、その良さから学ぶ。	事前学習	成果発表の準備をしておく。
		事後学習	課題レポート（小論文）を決められた期日までに文書で提出できるようにする。